

沖縄県に伝わる津波伝承碑

明和大津波や、津波石をもたらした津波



石垣島の津波石はなぜそこにあるのかな？
地理院地図で自然災害伝承碑の伝承内容も見てみよう



複数の自然災害伝承碑を見ることで、明和大津波だけでなく、それ以前にも大きな津波があったことが分かるね。

石垣島東海岸の津波石群津波大石(つなみうふいし)

年代測定調査で約2000年前の津波で今の場所に移動したということがわかってきた石です。

石垣島東海岸の津波石群 津波大石(つなみうふいし)	
概要	石垣島東海岸の津波石群 津波大石(つなみうふいし)
種名	津波石(つなみいし)
災害名	津波(不明)
災害種別	地震・津波
建立年	不明
所在地	沖縄県石垣市大字 年代測定調査で約2000年前の津波で今の場所に移動したということがわかってきた石です。明和大津波以前にも大きな津波がこの地を襲ったという数回あるとされる貴重な津波石です。
伝承内容	
ID	47207-002

明和大津波遭難者慰霊之塔

明和大津波遭難者慰霊之塔	
概要	明和大津波遭難者慰霊之塔
碑名	明和大津波遭難者慰霊之塔
災害名	明和大津波(1771年12月24日)
災害種別	地震・津波
建立年	1983
所在地	沖縄県石垣市字高良689
伝承内容	明和大津波は1771年(明和8年)、石垣島南東沖を震源とするマグニチュード7.4の地震による大津波で、先島諸島に甚大な被害をもたらした。津波に襲われた八重山諸島では、死者・行方不明者が9313人にのぼった。
ID	47207-001

明和大津波は1771年(明和8年)、石垣島南東沖を震源とするマグニチュード7.4の地震による大津波で、先島諸島に甚大な被害をもたらした。津波に襲われた八重山諸島では、死者・行方不明者が9313人にのぼった。

沖縄県に伝わる津波伝承碑

チリ地震・太平洋を横断した津波



1953年に完成した初代の屋我地大橋は、(中略)南米チリで起こった地震がもとで発生したチリ津波により流失してしまいました。

昭和35年(1960)5月23日南米チリ近海でM8.5の地震が起き大津波が発生。津波は太平洋を横断。当地には、真喜屋小学校があったが津波によって全校舎が破壊された。



津波被災地跡

チリ地震の津波は、太平洋を越えて来たんだね。太平洋側だけでなく、東シナ海側にも自然災害伝承碑があるよ。



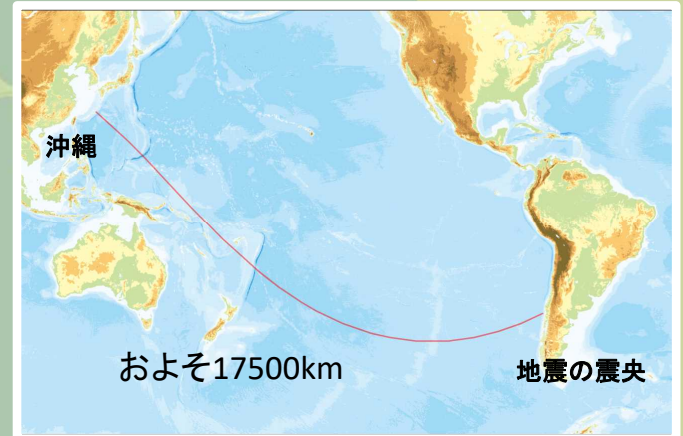
屋我地大橋の歴史

当地には数回に亘り襲来。津波高5mにも及び大浦橋が全壊、護岸も決壊した。



津波襲来の碑

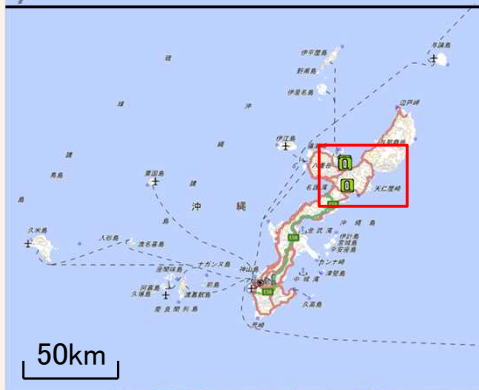
地理院地図のツールを使えば、チリまでの距離を測ることができるよ。



およそ17500km

地震の震央

※チリ地震の震央位置は「理科年表2023, 丸善出版」による



50km

3km